

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	社会医療法人財団 慈泉会							
代表者名	氏名	相澤 孝夫	役職名	理事長				
主たる事務所の所在地	長野県松本市本庄2丁目5-1							
主たる事業の分類	大分類	P 医療、福祉						
	中分類	8311 一般病院						
主たる事業の概要	<p>慈泉会は長野県の松本市に位置し、相澤病院・健康センター・地域在宅医療支援センター・医学研究研修センター・サービス付き高齢者向け住宅「結」本庄を運営し、地域に医療・介護を提供しております。</p> <p>その中心である相澤病院は、24時間365日患者さんの受入を断らない救命救急センターを有するとともに高度先進医療を行うため、がん治療装置である「陽子線治療装置」を導入し地域のがん診療の向上にも寄与しております。</p>							
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者						
原油換算エネルギー使用量	4804	kl	その他ガス排出量合計	0	t-CO ₂	自動車の台数	132	台

2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	26	年度	～	28	年度	報告対象年度	28	年度
------	----	----	---	----	----	--------	----	----

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	<p>閲覧要請（事前連絡要）があった場合審査の上、後日開示する。</p> <p>平日9時～12時 保管部署：総務課 電話番号 0263-33-8600</p>
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

慈泉会全体の排出原単位の年間1%削減を目標とした設備管理を行い、省エネルギー活動を効果的に推進できるように運用する。

平成26年度の基本方針で、「陽子線治療設備は平成26年9月以降本格稼働するのでその後は稼働実績をふまえて年間目標を算定する。」として進めてきました。

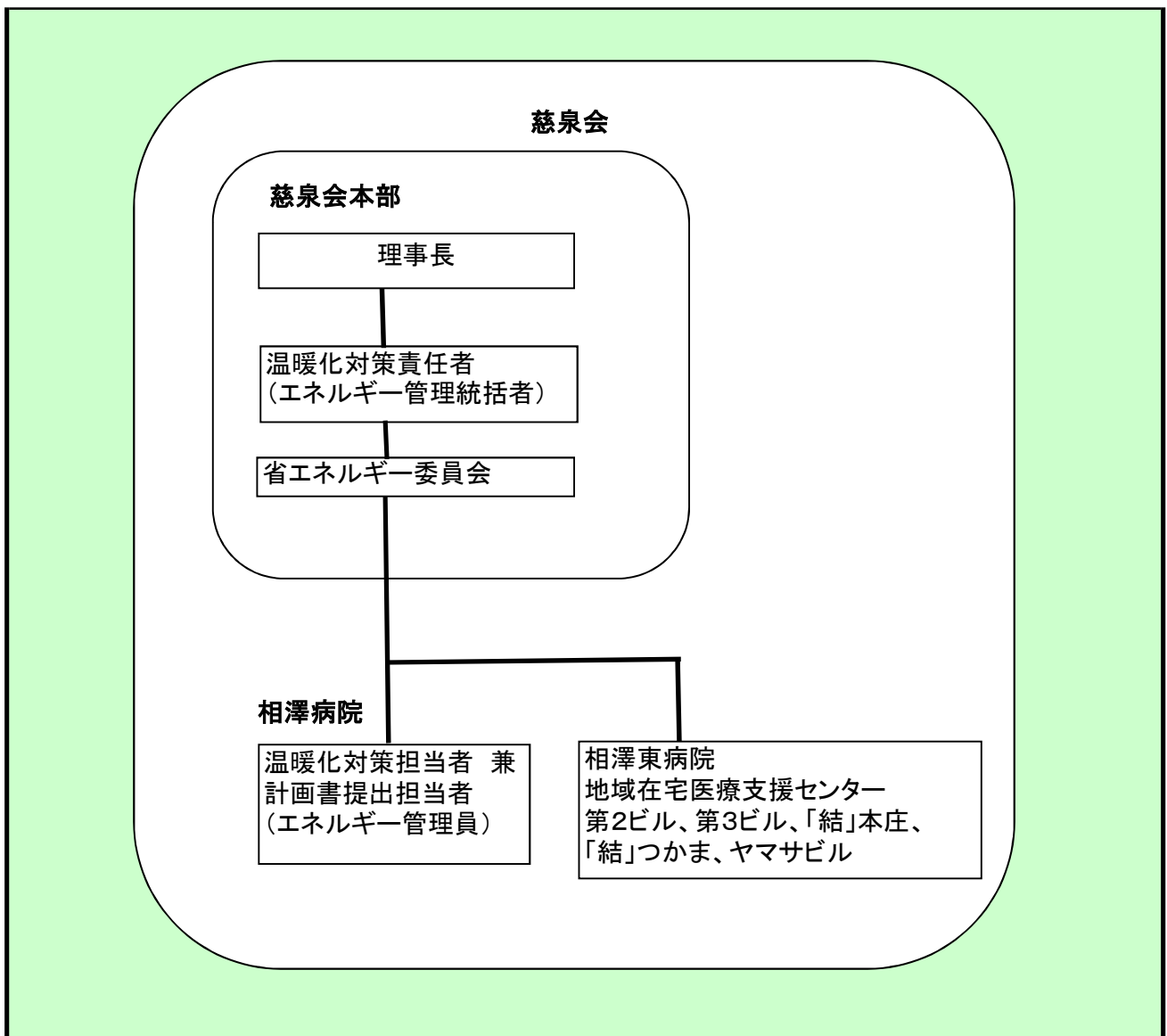
陽子線治療装置については、莫大なエネルギーを使用するため、平成26年に関東経済産業局へ省エネ法87条第3項により「エネルギー使用合理化等に関する補足説明」の報告を行った際、陽子線治療装置における患者数（原単位）の考え方について以下のとおり指導を賜りました。

「相澤病院の患者1人あたりのエネルギー使用量と陽子線患者1人あたりのエネルギー使用量を算出し、相澤病院の患者1人あたりと陽子線患者1人当りの比率（倍数）を加算することが適切である。」

今回、相澤病院の患者1人あたりの電気の使用量と陽子線患者の1人あたりの電気の使用量の実績より、55倍の比率（倍数）にて患者数を算出しました。

この数値を「生産数量又は、延床面積その他のエネルギー使用量と密接な関係をもつ値」として採用し、陽子線治療患者を含めた原単位管理を行っています。

5 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	10,230	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
25年度	調整後排出量	8,500	t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量	9,926	t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
28年度	目標削減率	2.97	%	目標削減率	1.00	%		1
目標設定に関する説明	3年間で対前年度比、年平均1%の排出原単位削減を目標にすると共に、ピークカットを進める。 (基本方針の改訂により修正した。)						※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。	
第一年度	排出量	10,034	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	9,988	t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
26年度	削減率	1.91	%	削減率		%		5.5
排出量等の増減理由	省エネルギー活動としてQ&A型式にて啓発活動を行った。 ノー残業デーに自主的に取り組んだ結果及び陽子線治療施設に於いて平成26年10月より試験照射が減り、治療運用となったことで、エネルギー使用量が減った事より、CO ₂ 排出量が、1.91%減少した。							
第二年度	排出量	9,916	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	9,882	t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
27年度	削減率	3.06	%	削減率		%		15.7
排出量等の増減理由	寄与度の合計から求めた実質削減率が15.7%改善された要因については、以下の2つと考えます。 ①慈泉会全体の二酸化炭素排出量が、基準年度(平成25年)と比べ3.06%減少しました。その主な要因としては、陽子線治療装置の治療以外(装置の試験)で使用していた時間が半減した事が考えられます。 ②相澤病院の陽子線治療の患者が増加したことにより、みなし患者数(相澤病院における原単位の分母にあたる患者数)が基準年度(平成25年度)430,000人から平成27年度500,361人に16.4%増加しました。							
第三年度	排出量	9,676	t-CO ₂	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	9,633	t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
28年度	削減率	5.41	%	削減率		%		13.1
目標の達成状況及び排出量の増減理由	基準年度に対する二酸化炭素排出量の結果について、二酸化炭素総排出量削減目標2.97%に対し、3.82%削減されました。寄与度の合計から求めた実績削減率削減目標3.0%に対し、11.6%の削減がされ目標は達成されました。尚、寄与度が平成27年度と比較して悪化した原因については、エネルギー使用量全体の90%を構成している相澤病院について、病床数が502床から460床に減少したことよりベースとなる患者数の急激な減少により削減率が小さかった事によります。 二酸化炭素排出量が改善された要因としては、陽子線治療装置の治療以外で使用していた試験時間が減少した事が大きいと考えられます。							

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位		
25年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率*
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率*
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率*
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率*
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	202	t-CO ₂			
25年度						
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		実績	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	120601 コ・ジェネレーション2号機導入に伴う排熱回収(空調・給湯)	26年度	100		
2	エネ起	150204 ディスプレイ用スポットライトを消灯する(100W3本→撤去)	26年度	2	26	2
3	エネ起	150205 階段の照明を人感センサー付きにする。(B棟3番階段)	27年度	2		
4	エネ起	150205 階段の照明を人感センサー付きにする。(A棟1番階段)	28年度	1		
5	エネ起	130105 手術室AHユニットの運転時間の見直し	27年度		27	21.9
6	エネ起	110203 手術室 7番 空調機の高効率機器への更新	27年度		27	7
7	エネ起	110203 手術室 器材庫 空調機の高効率機器への更新			28	7
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光発電設備	KW	10	0	10	10	10

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書(電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書(熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	1730		46	34	43
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出状況 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	1	9,276	1	9,129	1	8,990	1	8,601
1,500k1以上 3,000k1未満	0	0	0	0	0	0	0	0
1,500k1未満	10	953	10	904	12	925	14	1,075
合計	11	10,229	11	10,033	13	9,915	15	9,676

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出状況 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数及び導入計画 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	0	0	0	0
電気自動車	0	0	0	0
燃料電池自動車	0	0	0	0
クリーンディーゼル自動車	0	0	0	0
その他	4	6	5	9
合計	4	6	5	9
自動車総数	129	135	143	132
次世代車導入割合	3.1	4.4	3.5	6.8

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援

区分	内容
中小企業への省エネ診断	なし
その他	なし

1.5 交通対策

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	看護師寮を2km以内に設置して職員の約28%は徒歩等である。
公共交通機関の利用促進	通勤距離2km以内の職員は自家用車通勤を禁止している。
来客者の交通対策	コミュニティバスを運行している。(病院前停留所を設置している)
物流の合理化	納品時間指定を行い、外来時間と重ならないようすることにより車両の待ち時間の短縮をしている。

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1		
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	県内の緑化及び森林の保全 (J-verクレジット、森林の里親契約)
第一年度実績	県内の緑化及び森林の保全 (J-verクレジット、森林の里親契約)
第二年度実績	県内の緑化及び森林の保全 (森林の里親契約)
第三年度実績	県内の緑化及び森林の保全 (森林の里親契約)

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO ₂)
基準年度以前の取組み	コ・ジェネ1号機 (ガス) による排熱回収 (温水)	140
その他	特になし	